



星と稲

伊米ヶ崎小学校 学校だより

<http://uonuma-school.com/school.com/ed03>

NO 8

発行日 令和元年 11月 5日

発行者 校長 名塚高明



修学旅行で見かけた野生のトキ

みんなの力で…

先月6学年の子どもたちと一緒に修学旅行に行ってきました。いつもの年なら6月に行くのですが、コロナウイルス感染拡大予防のため、市内小学校の多くが秋実施になりました。子どもたちもそうですが、引率教員も秋の修学旅行は初めてでしたので、コロナ感染対策も含めて、緊張感のある旅行でした。とはいっても、素直で明るい子どもたちです。旅行を大いに楽しみ、海で戯れていました。

(修学旅行の様子は裏面をご覧ください。)

その中で、忘れられない印象的なシーンがありました。それは、佐渡奉行所に向かうバス車中のことでした。ガイドさんに促されて見た窓外には、トキが十数羽、田んぼで餌をついばんでいました。しばらくすると、バスからの熱い視線を感じたのか、トキたちが一斉に飛び立ちました。朱鷺色の翼は青空の中で、輝いていました。ほんの一瞬のことでしたが、今でも、この光景が目に残っています。私たち世代は、徐々にトキが個体数を減らした末、一斉捕獲し人工飼育していく過程や、日本生まれのトキのキンとミドリでは繁殖が上手くいかず、結局、絶滅してしまい、その後、中国からの協力を得て人工繁殖の末、ようやく数を増やしてきたことを、オンタイムで新聞やニュースで見ました。ですので、大空に舞うトキを目の当たりにして、感激もひとしおでした。

トキの野生復帰は、簡単でも偶然でもありませんでした。トキを繁殖させ、育つ環境を整えるには、多くの人々の理解と協力が不可欠でした。繁殖の難しさ、水生生物を育てるための農薬の制限、餌を育てるための放置水田の耕作…、長い年月に渡る困難の連続でした。そうまでして人々がトキの野生化を目指したのは、一つは生物多様性の維持のためですが、他にもう一つ、人と共に歩んだ日本の風土のシンボルとして、トキの存在価値が挙げられます。学名であるニッポニアニッポンが示す通り、トキの舞う姿は日本古来の風景でした。美しい魚沼の水田風景にもトキは舞っていたのです。現在、佐渡島の内外に600羽を超えるトキが生息しているそうです。魚沼の空をトキが舞うのも遠い将来でないかもしれません。

さて、絶滅危惧種保護に取り組むのは、佐渡や日本だけではなくありません。2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標SDGs(エスディージーズ)の中にある「15 陸の豊かさを守ろう」には、生物多様性を守るために、絶滅危惧種の保護と絶滅防止のための緊急対策の実施について言及されています。このSDGsについては、新聞やテレビでも取り上げられることが増えているのでご存知の方も多いと思います。差別や貧困、環境破壊、気象異常等の世界共通の課題についての取組が掲げられています。トキの野生復帰は、地球規模で考えればわずかなことかもしれませんが、しかし、人々が理解し、学び、協力して行動することによって、トキの絶滅を防げたことは、これからの取組に示唆を与えることになるでしょう。コロナ禍がなければ、2020年は、10年後の2030年のSDGsのゴールに向けて、10年の取組のスタート年に当たり、世界的なムーブメントが起きているはずでした。しかし、コロナウイルスのパンデミックは、世界経済を打撃し、国と国との関りを絶ち、SDGsの歩みは止まったかに見えます。しかし、逆に国際協力、協調の大切さはより明らかになりました。SDGsの目標には「パートナーシップにより、誰一人残すことなく目標を達成する」ことも記されています。今を生きる我々には、互いに連帯して平和で平等で豊かさを共有した持続可能な世界を目指す大きな宿題が課せられているのです。



10/13,14 6学年 佐渡修学旅行

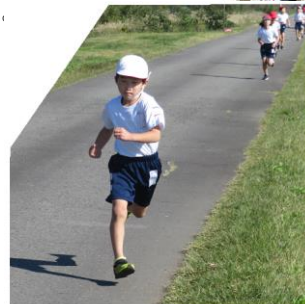


子どもたちはたらい舟や砂金取りなど、様々な活動を楽しんできました。帰りのジェットホイルの中も、元気いっぱいでした。伊米ヶ崎とは違う自然の中、6年生は子どもらしく楽しく、元気に活動し、仲間との絆を深めていました。

佐渡での体験は、小学校での最高の思い出になったことでしょう。

10/21 秋空に駆けろ! 持久走記録会

10月21日(木)、天高く晴れ渡った空の下、校内持久走記録会が行われました。今年は、運動会や修学旅行など、秋に行事が多くあったため、練習時間はいつもよりとれませんでした。しかし、子どもたちは、一人一人がめあてをもち、最後まで走り抜くことができました。当日は、保護者の皆様からの温かい声援をいただきました。本当にありがとうございました。



～校内持久走記録会 学年男女別1位～

1年女子 1000m	坂大 琴音	5分29秒
男子 1000m	上村 颯真	5分18秒
2年女子 1800m	八海 みなみ	9分05秒
男子 1800m	皆川 煌希	8分10秒
3年女子 1800m	佐藤 恵	8分23秒
男子 1800m	森山 和貴	9分08秒
4年女子 2200m	坂大 萌胡	10分01秒
男子 2200m	坂大 日葵	10分37秒
5年女子 2200m	荒井 結菜	12分03秒
男子 2200m	南雲 皇	8分59秒
6年女子 2200m	米山 奏瑠	10分15秒
男子 2200m	番場 望太	9分33秒



各種コンクールでの入賞者の紹介

新潟県教書大会 (新潟県書道教育研究会主催)

- 特選 毛筆 4年 佐藤いろは
- 毛筆 4年 坂大 愛莉
- 硬筆 2年 佐藤愛里花
- 準特選 硬筆 2年 佐藤ことみ

魚沼市消防団 『小学生の防火標語』

- 優秀賞 6年 番場 望太 「ホコリあり 家電の後ろ 要注意」
- 佳作 6年 荒井 美鈴 「火事の元 小さな火から 大きな火」
- 佳作 6年 荒井 玲杏 「気をつけて 身近にひそむ 火のあくま」

